

## 2015年度京都芸術デザイン専門学校卒業式祝辞

2016年3月13日〈日〉

京都造形芸術大学学長 尾池和夫

京都芸術デザイン専門学校、クリエイティブデザイン学科186名、デザイン総合学科3名、クリエイティブデザイン専攻科5名、計194名の皆さま、ご卒業まことにおめでとうございます。今日の皆様を含めて、京都芸術デザイン専門学校の卒業生総数は、3千013名となり、1週間前で、進路決定率も92%に達しているとうかがいました。このことも重ねておめでとうございます。

学校法人瓜生山学園の役員、教職員を代表して、今日のこの日まで見守りながら学習を支えてこられたご家族の皆さまにも、心からお祝い申し上げます。学生たちをご支援くださった、企業、団体、自治体の方々に、感謝いたします。教職員の皆さんにも、一方ならぬご努力に敬意を表したいと思います。

2016年2月13日と14日に「はじまりのあしおと」と題して、京都芸術デザイン専門学校の卒業制作展、進級制作展が京都都メッセの会場で開催されました。そのときの印象を少しだけ述べてみたいと思います。

インテリアデザインコースの月岡華春さんは、1本の大きな木がシンボルとなって、人びとが集まる丸い空間を生み出しました。コミックイラストコースの木下晶恵さんは、どんなところにもでも現れる「ジョセフィーヌ」という白い生物を生み出しました。ビジュアルデザインコースの池内春花さんは、日常の小さな悩みを集めて「なやみの種」を作りました。その説明には「芽が出る前に摘んでしまいたい」とありました。

ビジュアルデザインコースの佐伯共美さんは、「houhou」という梟の抱き枕を作りました。ビジュアルデザインコースの瀬川紗代さんは、母から娘へ送る応援のお守りアクセサリである「赫星」をデザインしました。

また、ときにフロアいっぱいファッションショーが開催されるなど、いずれにしてもとても楽しい会場で、時間のたつのを忘れてしまうほどでした。ちょうど同じ時に京都市立美術館では京都市芸術大学の卒業展が行われており、また岡崎公園では毎月第2土曜日の平安楽市が開かれていて、それらも見てきましたが、まったく異なる空間の対比がたいへん興味深く感じられました。

卒業制作展にはこのように学習の成果が結実していましたが、そこにいたるまでにも皆さん方はさまざまな場所でめざましい活動をしてこられました。例えば、本日ご来賓の京都府下鴨警察署との防犯啓発キャラクターを制作する活動が私の記憶に残っています。下鴨警察署とコミックイラストコースの取り組みで、キャラクターのデザインとイベントの実施で、下鴨警察署より感謝状をいただきました。ありがとうございました。

多くの組織や、産業界と幅広いネットワークを築き、皆さんが現場に出かけて、仕事を通して学習するという基本を守ってきました。その成果がすばらしい卒業制作となりました。

た。京都芸術デザイン専門学校は即戦力の人材を育てることを目標としています。そこで今日の卒業式を迎えた皆さんが、社会で大いに活躍することを期待しています。

私の好きな水木しげるさんは、「適当にやらないとね、漫画家は死ぬよ。寝なきゃ駄目。食べたいものは食べないと駄目。疲れたら休まないと駄目」と言っておられました。そのことも記憶にとどめていただいて、心身の健康を大切にしてご活躍されるよう祈りつつ、卒業のお祝いの言葉を結びます。

ご卒業、まことにおめでとうございます。ありがとうございました。